

YOU(あなた)とYUYA(ゆや)をつなぐYY(わいわい)通信

ゆ

や

県政

報告

発行責任者／三重県議会議員 杉本熊野



新しい年が始まりました。

昨年は、東日本大震災による未曾有の被害や、
三重県においても台風12号によって
甚大な被害が発生し、一人ひとりの心に忘れる事の
できない深い傷跡を残しました。「命の尊さ」に思いを馳せることの多い年となりました。
これまで「大丈夫！」「当たり前！」と思ってきたものが崩れ、不安感の漂うなか、
こんな時だからこそ、しっかりと未来を見通し、
誰もが安心して暮らせる社会が強く求められます。

今、三重県では、新しい三重のあるべき姿を展望し、県政運営の基本姿勢や
政策展開の方向性を示す、「みえ県民力ビジョン」と行動計画を策定しています。
今後10年先を見据えた重要なビジョンです。

地域の実態や暮らしの中の声を反映できるよう、精一杯とりくみます。
県民の皆さまのご指導・ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



あるく！きく！ 活動報告 Vol.1

県内外の調査や地域を歩くことにより、多くの皆さまとの対話を通じて県政の課題をつかむ活動です。

新エネルギーの可能性を調査してきました。

今年度は政策総務常任委員会に所属し、副委員長として活動しています。
三重県は、今年度中に「三重県新エネルギービジョン」を策定する予定です。
先日、委員会で、熊本県にあるメガソーラーを視察しました。

見てきました！メガソーラー（大規模太陽光発電）

(株)LIXIL有明工場が、熊本県と長洲町と連携して建設した大規模太陽光発電施設です。太陽光パネル20,280枚によって、1,000軒分の電気をつくることができます。熊本県では、「くまもとソーラープロジェクト」を立ち上げ、太陽光発電の先進県に向けたとりくみがすすめられています。

東日本大震災以降、エネルギーをめぐる状況が一変し、新たなエネルギー政策が求められています。太陽光発電、風力発電、バイオマス発電など地域特性を生かした新エネルギーの導入を促進できるようとりくみます。



政策総務常任委員会
副委員長として
活動中です！





特集

災害に強いまちづくり

東日本へ 「ぬくもり」を届けたい

3.11以降、具体的な東日本支援を呼びかけ、人と人をつなぐ、顔の見える支援活動にとりくんでいました。特に子どもや女性の問題に焦点を当て、文房具や図書などの学習支援、クラブ活動費、女子学生の下着や生理用品、お母さん方へのあったかグッズなど、ニーズを聞き取り直接届けてきました。

■ 災害現場へ！

■ 再び東日本へ～みえの防災対策に活かします～

「東日本大震災に関する復旧・復興支援調査特別委員会」の委員として、現地調査のため、8月に再び宮城県・岩手県を訪れました。三重県からの支援が被災地にとって有効だったか、広域自治体として役割を果たせたかなどを検証し、下記の3点を県に対して意見・要望しました。

このことは、三重県において、東海・東南海・南海地震が発生した場合に必ずや活かされます。今後も、三重県が、市町や企業、各種団体等と協働し、被災地へよりきめ細かな支援を行うよう求めています。

意見・要望 1

今後、大きな災害が発生した場合、支援する県を1つに統一し、カウンターパート方式による効果的な支援をする。また、県内市町と連携し統一的な支援ができる体制づくりにとりくむこと。

意見・要望 2

県、市町、企業、様々な団体等で構成した協議の場を設け、長期支援を計画的に行うこと。また、そのための専門的知識を持った人材の育成にとりくむこと。

意見・要望 3

自治体が被災した場合には、早急に現地支援本部を設置する態勢を整えるなどの事前準備を十分にしておくこと。また、後方支援にとりくむ市町を支援すること。



みえ災害ボランティア支援センターが、震災後、最初に支援に入った岩手県山田町

■ 美杉町、紀宝町へ～台風12号による甚大な被害発生！～

9月1日から来襲した台風12号は、記録的な豪雨となり、河川の氾濫や土砂災害が発生し、御浜町、紀宝町、熊野市、津市など県内各地に甚大な被害をもたらしました。

三重県は総額289億円の補正予算を組み、道路や河川など公共施設の早期復旧や被災者の生活再建にとりくんでいます。

美杉町では、土石流によって民家が土砂に埋もれ、橋が流さ



土石流による被害(美杉町)



美杉小学校うら山の地滑り

れ、農地に土砂が流れ込むなどの被害が発生しました。また、美杉小学校の裏山に地滑りによる段差が発見されました。現在子どもたちは、校舎の安全が確認できるまで、旧太郎生小学校(臨時校舎)で学習をしています。

県は、今、早急に調査を実施し、万全な安全対策となるようとりくんでいます。



堤防の決壊による被害(紀宝町)



知事に質問！～6月14日・三重県議会一般質問～

■ 県民参画の防災対策を

～「緊急地震対策行動計画」策定にむけて～

Q

「緊急地震対策行動計画」策定にあたっては、県民参画型、地域参画型の行動計画づくりにして頂きたいと考えますが、知事のご所見は？

A

これまでの津波対策を総点検し、緊急かつ集中的な計画を策定し、具体的なとりくみをすすめたい。総点検をすすめるにあたっては、避難経路の点検やハザードマップの見直しなど地域が主体となったとりくみが県内全域に広がるよう、市町と連携していくたい。また、市町と意見交換し、県民からの声をしっかりと具体的に、行動計画に反映していきたい。

福祉避難所
とは…

高齢者、障がい者、妊産婦、乳幼児、病弱者などのために特別な配慮がされた避難所のこと。要援護者の状況を把握し、事前に施設を指定しておく必要があります。

■ 災害弱者対策の充実を

Q

自閉症や遷延性意識障がい者の保護者の方々から、「災害時に受け入れてくれる福祉避難所(※)の整備を」との声が上がっています。今後のとりくみは？

A

必要性や財政的な支援などについて、市町に説明し、福祉避難所確保の働きかけを行っていきたい。

■ ユニバーサルデザインを防災対策に

Q

ユニバーサルデザインの防災対策について県の方針と今後のとりくみは？また、海拔表示の統一マークをつくり、信号機や電柱、ビルの壁に表示して頂きたい。

A

避難所や避難経路の標識について、誰にでもわかりやすいかという観点から総点検をすすめていきたい。海拔表示については、十分に設置されているか確認作業を行いたい。



防災に女性の視点を！

三重県議会は11月20日「みえ現場de県議会」を開催し、県内各地より女性の皆さんに多数参加して頂きました。

私が参加した防災対策の分科会では、東日本大震災をふまえ、避難所運営や復興・生活再建に女性の視点が重要であること、防災計画づくりや、地域の自主防災活動への女性の参加・参画の必要性など、男女共同参画の視点から熱心な意見交換がなされました。今後の防災対策に活かしていきます。



地域の自主防災訓練に参加！



▲養正地区 仮設トイレの組み立て訓練に初めて参加しました。



修成地区▶各自治会ごとに集まって、避難しました。ヘルメットなども装備しています。



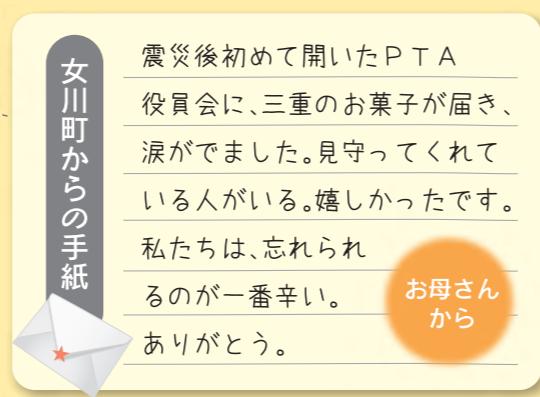
今後も、「寒い冬を少しでもあたたかく…」と願い、靴下や手袋、ひざかけなどを送る予定です。届くのは靴下一足ですが「ぬくもり」の心が届いたら、と思っています。



心でつながる支援活動
こころ
ねつと

東日本へ 「ぬくもり」を届けたい

3.11以降、具体的な東日本支援を呼びかけ、人と人をつなぐ、顔の見える支援活動にとりくんでいました。特に子どもや女性の問題に焦点を当て、文房具や図書などの学習支援、クラブ活動費、女子学生の下着や生理用品、お母さん方へのあったかグッズなど、ニーズを聞き取り直接届けてきました。



石巻市からの手紙

震災後初めて開いたPTA役員会に、三重のお菓子が届き、涙がでました。見守ってくれている人がいる。嬉しかったです。私たちは、忘れられるのが一番辛い。ありがとうございます。

お母さん
から

石巻市からの手紙

子どもたちは、明るく元気に毎日を過ごし、一見すると普通の子ども達と変わりません。しかし、過酷な体験をしてきた子どもたちです。張り詰めた気持ちで、「自分は大丈夫」「もっと元気にしなければ」「明るく前向きに」と言い聞かせながら生活していることがよく分かります。これからが、本格的に心の問題が出てくる時期だと言われており、なお一層子どもたちの心に寄り添いながら毎日を過ごさねばならないと覚悟しているところです。

先生
から



HAPPY MIE PROJECT

あなたの声、あなたの思いをかたちに！

若者が希望を語り、子どもや高齢者、障がい者、外国人など、誰もが安心して暮らせる社会にしたい。

そんな願いを胸に、雇用・経済・防災・医療・福祉・介護・子育て・教育などの課題にとりくみ、「人と人がつながり 思いがつながる 地域づくり」をめざして、毎日、精一杯活動しています。そこで出会ったすばらしい地域の皆さんを、ご紹介します。



無縁から
有縁に！

高齢化率37%を超える千里ヶ丘では、近年、誰にも看取られず亡くなる孤独死が発生しました。家族や社会とのつながりを失う無縁社会となり、孤独に亡くなつて

いく人が増えつつあるという危機感から、「一人暮らしの方と日頃から声をかけあえる関係づくり」に、地域住民が立ち上りました。そして、地区社協、自治会連合会、各自治会、老人会、民生委員、千里ヶ丘小学校PTA、千里ヶ丘小学校、放課後児童クラブ、

“フレンズ”
外では、子どもたちが
竹馬や竹とんぼに
歓声をあげていました！



高田短大、津市社協、その他多数の方の協働によって、平成21年6月に千里きっさ「わらい」、10月に西千里なごやかサロン“フレンズ”、22年7月に千里キッサ「つどい」を開設しました。

「わらい」
高田短大の学生や
千里ヶ丘小の子どもたちも
スタッフです！



開かれた議会へ
すすめます！

議
会
改
革

住民にわかりやすく
住民が参加しやすい
「開かれた議会」



住民本位の政策決定、
政策のチェックと
評価の強化

プロジェクト座長
として活動中！

独自の政策提言、
政策立案の
とりくみ

三重県議会は、地方分権時代をリードする議会をめざして、議会改革にとりくみ、今年度は、「会期等のさらなる見直しに関する検証検討プロジェクト会議」を設置しました。私はこの会議の座長として活動中です。議会機能が強化され、県民サービスの向上につながるよう努めています。

県政・県議会に対してのご質問やご意見をお待ちしています。

今後も、子どもたちの笑顔あふれる未来を目指し、くらしの切実な願い、現場の声、女性たちの思いを県政に反映できるよう精一杯とりくみます。皆さまからのご指導ご支援をよろしくお願い申し上げます。



杉本ゆや事務所 (各地域で行われる行事などにもどんどん声をかけてください)

〒514-0003 津市桜橋2丁目142 TEL 059-226-6252 FAX 059-227-7139

■「杉本ゆや」で検索するとホームページをご覧頂けます。

